佐賀県立博物館･佐賀県立美術館　〒840－0041　佐賀市城内1丁目15－23　TEL. 0952－24－3947　FAX. 0952－25－7006

佐賀新聞　2010(平成22)年1月30日(土)　県内文化欄　連載「近代との遭遇―世界を見る･日本を創る―」⑥

土曜日)　佐　賀　新　聞　(第三種郵便物認可)

県内文化

スポットSPOT

近代との遭遇

世界を見る・日本を創る

―⑥―

久米邦武と大隈重信

生涯続いた同郷の友情

久米邦武と大隈重信（中央右から４人目が久米。その左隣が大隈）
＝久米美術館蔵

「余の一生は古今の歴史中最も面白い時代であって、是を一統の芝居とするなら、余は其の一番面白い幕を見たと言ひ得る」（『久米博士九十年回顧録』）。ご覧実記』を編修したことで知られる歴史学者久米邦武は、大隈重信ら「同郷の諸先輩」が明治新政府で活躍することができたのも、その幕」を「一等席」から見ることができたと久米は振り返っている。

岩倉具視に随行

久米邦武（1839～1931年）は江戸・明治・大正・昭和という時代を生きた歴史学者で、2度の内閣総理大臣を務めた大隈重信（1838～1922年）とは1歳違いであった。二人は佐賀藩の藩校、弘道館でともに学んで以来、その友情は生涯続いた。

江戸時代、久米邦武は弘道館、昌平坂学問所で学んだのち、鍋島直正の側近となった。一方の大隈重信は弘道館、闇学寮で学んだのち長崎へ遊学し、アメリカからやって来た宣教師フルベッキ（のちに明治新政府のお雇いとなる）と出会って、西洋諸国の政治・法律・財政等さまざまな学問を学んでいた。

1871（明治4）年、久米邦武は岩倉使節団に参加して米欧回覧の旅へ出た。しかし、もともとこの使節団派遣の話は、大隈重信がフルベッキから提案されていたことをもとに計画してきたものであった。大隈自身、西洋諸国へ渡航する希望をもっていたが、条約改正の予備交渉など国の今後を左右する重要事項が含まれていたため、大隈使節団派遣の計画は、右大臣岩倉具視を特命全権大使とする使節団派遣に変わった。結果的に大隈は渡航できなかったが、久米邦武が大使岩倉具視の随行となり、米欧回覧を果たし、『米欧回覧実記』を編修した。

米欧回覧実記＝佐賀県立佐賀城本丸歴史館蔵

万博の総裁に

大隈重信は明治初期、参議、大蔵卿として明治新政府の近代化政策に関わり、1873（明治6）年にはウィーン万博の総裁として、副総裁の佐野常民とともに出品物の準備を進めた。明治14年の政変で政府を離れた大隈重信は、東京専門学校（のちの早稲田大学）や立憲改進党を創設し、後年2度の内閣総理大臣を務めた。

弘道館で学んだのち、別の道を歩んでいた二人だったが、久米邦武が1892（明治25）年、神道は祭天の古俗」事件で帝国大学を辞すると、大隈重信は久米を早稲田に招いたようで、1899（明治32）年には久米邦武は東京専門学校の講師となり、1922（大正11）年に大隈重信が亡くなるまで早稲田大学に籍を置いた。

なお、久米邦武には息子の桂一郎がいたが、留学生活の長かった桂一郎について、「彼は半西洋人なり」として父子一緒には暮らしていなかった。しかし、邦武が高齢になったことから、大隈重信が間にたって二人を同居させたという。

（佐賀城本丸歴史館学芸員　松田利子）

帝大辞職後、早大に招く

佐賀城本丸歴史館の開館５周年を記念した特別展「近代との遭遇―世界を見る・日本を創（つくる）る―」は２月14日まで県立美術館で開催。２月８日は休館。観覧料は一般1000円、大学生800円、高校生以下と障害者は無料。関連事業として、学芸員の展示解説（会期中毎週土曜午後２時から、要入場券）▷県立博物館常設展・特別展示「岡田三郎助―洋画の美、花ひらく―」（３月14日まで、観覧無料）▷高辻知義東京大名誉教授講演会「久米邦武の見なかった町と国・マイセン、ザクセン」（２月７日午後１時半、県立美術館ホール、聴講無料）―がある。問い合わせは佐賀新聞社事業部、電話0952(28)2151へ。